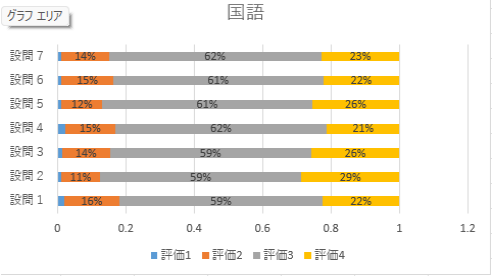
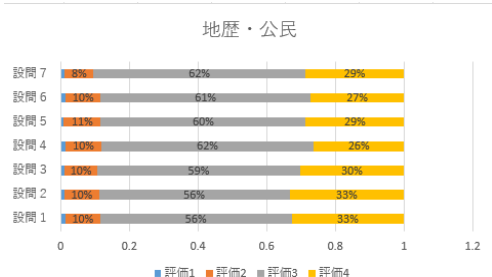
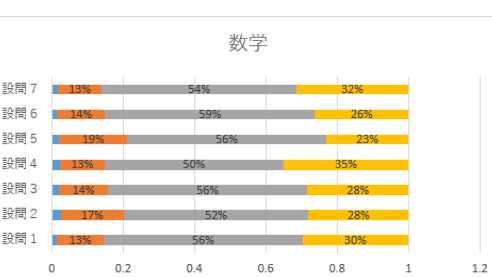
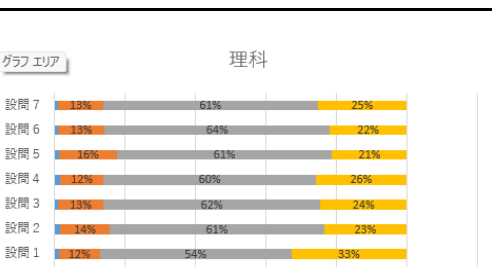
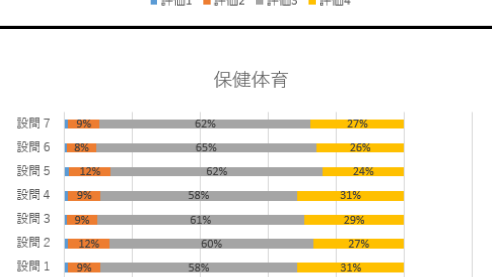
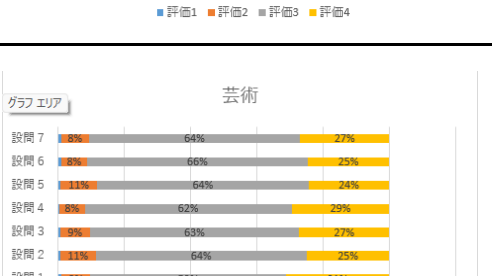
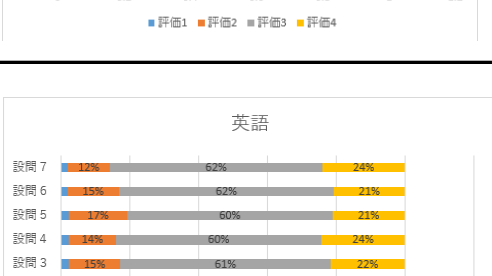
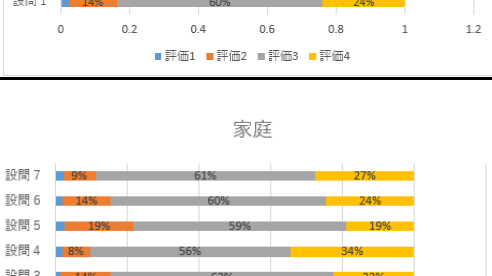
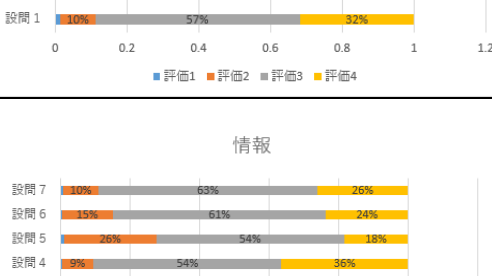
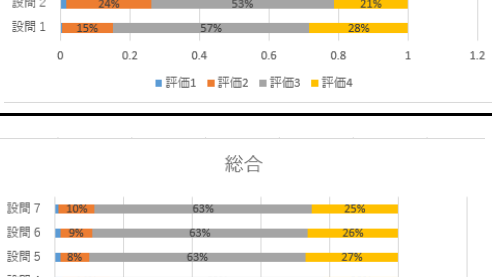
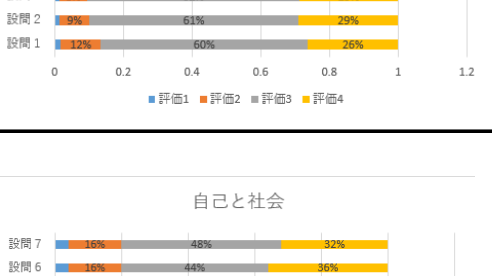


第2回生徒による授業評価 集計と分析等について 報告

質問項目				
		平均	① 結果の分析・課題の整理	② 改善の方針・今後の取り組み
国語		3.0	各項目の評価平均が3.0～3.2で概ね良好である。特に項目2「単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」については、各学年ともに最も高い評価となっている。科目として、自らの意見をふまえ協働的に学びを広げていく活動を重要視することができた結果であると考えられる。しかし、項目1「毎時間の授業や単元(内容のまとまり)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習した事を振り返ったりする機会がある」について、評価が低く、また、学習の状況についての各項目も相対的に低い評価となっている。生徒の学習において、適切な「学習のねらい」の設定や伝え方を徹底し、学習活動をより効果的なものとしていくことが課題として挙げられる。	特に、評価点の低かった項目1「毎時間の授業や単元(内容のまとまり)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習した事を振り返ったりする機会がある」については、各科目において、ICT等を用いて視覚的に内容を届ける工夫を取り入れたり、単元目標等を意識的に活動内で振り返り、関連付けて学習に取り組むことができる環境を整える方法を研鑽し改善に努めていく。また、項目4「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」については、成果物等を通して、記録に残る形で生徒が学習内容を視覚的に実感することができるよう取り組みを設定し、改善に向けて努めていく。
		3.2		
		3.1		
		3.1		
		3.0		
		3.1		
		3.0		
地歴・公民		3.2	全学年ですべての項目で評価3・4が全体の80パーセントを占めており、授業の在り方、学習の状況ともに概ね良好である。特に質問項目6と7においてできていると考える生徒が他の項目と比較して多い傾向にあった。授業で学んだことを過去に学習したことと結びつけて考えることができている生徒が多いと考えられる。しかし質問項目1・3・4については他の項目と比べて評価1・2が多かった。授業の中でできるようになる実感があまり得られていない生徒が多いことが考えられる。単元の目標やねらいの設定を行い、授業の中で自ら課題に取り組む時間を積み重ねていき、単元の終了時に振り返りを行う機会を設けるなど生徒が「できた」と感じられるような授業を行っていくことが課題として挙げられる。	生徒が「できた」と感じられる授業を行うにあたって、単元の目標やねらいの設定と単元ごとの振り返りが必須である。また授業内でワークや問題演習、意見共有などの課題を積み重ねていくことで自ら学ぶ姿勢が身に付き、「できた」と感じられる機会が増えたと考えられる。振り返りを行う際にはロイノート等を活用することで教材作成や配付の効率化を図ることができる。さらに振り返りを共有し、それを踏まえて新たな課題設定を行うなどして、より自主的に学びに向かう力を養うことができると考えられる。
		3.2		
		3.2		
		3.2		
		3.1		
		3.2		
		3.1		
数学		3.1	各小項目の評価平均はおおむね 3.0～3.1 に分布しており、授業の在り方および学習の状況の両面において、概ね肯定的な評価が得られていることが分かる。特に、「授業のはじめに学習のねらいが示され、振り返りの機会があること」「課題について自分の考えをまとめ、解決方法を考える場面があること」「授業を通してできるようになったことを実感できたこと」などの項目において、比較的高い評価が見られ、授業構成や問題解決的な学習の定着が一定程度図られていると考えられる。 一方で、「他者の考えを知り、自分の考えを広げ深めることができた」「他者の考えから新たな考え方を知り、自らの考えを深めることができた」といった、他者との関わりを通した学びに関する項目については、他項目と比べてやや低い評価となっている。このことから、話し合いや発表の場面は設定されているものの、生徒一人ひとりが他者の考えを踏まえて自らの考えを再構築したり深めさせたりするところまで十分に至っていない可能性が示唆される。 以上より、学習内容の理解や課題解決に向けた思考の場は確保されているものの、他者の考えを活用して自分の考えを広げたり深めたりする学習過程の充実が、今後の課題であると整理できる。	今後は、「自分の考えを表現する学習」から一歩進め、他者の考えと比較・検討することを通して、自らの考えを深める学習の充実を図ることを改善の柱とする。 具体的には、話し合い活動においてその目的を明確にし、「どの考えがより一般的に使えるか」「それぞれの考えの共通点や相違点は何か」など、考えを比較・統合する視点を持たせる発問を工夫する。また、代表的な考え方や異なる発想を意図的に取り上げ、それらを検討材料として全体で吟味することで、数学的な見方・考え方を深める場を設定する。 さらに、授業の振り返りにおいては、「分かったこと」にとどまらず、「他者の考えを聞いて自分の考えがどのように変化したか」「次に同様の課題に取り組む際にどの考えを用いるか」など、思考の変容を意識させる記述活動を取り入れる。これにより、生徒が他者との関わりを通した学びの価値を実感できるようにする。 これらの取り組みを通して、対話的な学びの質を高め、生徒一人ひとりが他者の考えを活用しながら主体的に学びを深めていく授業の実現を目指していきたい。
		3.1		
		3.1		
		3.1		
		3.2		
		3.0		
		3.1		
理科		3.2	すべての項目について「3.ほぼあてはまる」と回答した生徒の割合が、50～60％程度と最も多くとなっている。全学年を通じて項目2「他者の考えを聞き、自分の考えを広げ深める機会」と項目5「他者の考えを踏まえ、自分の考えを広げ深める」については、評価の平均値が低くなっている。 この結果の背景には、他者の意見を聞いたり、それを自分の理解に結び付ける、さらに発展させるといった活動が十分に行われていないことが考えられる。自分の考えを広げ深めるためには、形として表現する前に頭の中で十分に取捨することが必要であるが、発表の場面においてはその時間が不足している可能性がある。加えて、文章表現の力が十分でないために、思考を言語化することが難しくなっている面もある。今後は、知識理解を進行して、自分の考えを発展・整理する活動をより計画的に組み込むことが課題である。	授業のさまざまな場面で、自分の考えを口頭で伝えるだけでなく、文章として記録する取り組みを重視する。思考の流れや根拠を文字に記すことで、頭の中の整理が進み、表現力や他者との議論の質が向上することが期待される。また、授業内外でのICTツールを活用した記録や共有に家庭学習や課題の場面においても積極的に取り組むことで、学びを積み重ねる習慣を定着させる。これによって、知識の定着を図るとともに、自分の考えを深める力や表現力の向上に繋ぐ。
		3.1		
		3.1		
		3.1		
		3.1		
		3.0		
		3.1		
保健体育		3.2	全学年の評価平均はすべての項目で3.1以上となっているが、項目2「単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」で1あるいは2と評価したものが13％、4と評価したものが27％であった。また、項目5「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」で1あるいは2と評価したものが13％、4と評価したものが24％と項目2・5においては他の項目と比較して1あるいは2と評価したものが多く、4と評価したものが少なかった。特に1学年においてはすべての項目で4と評価したものが少なかった。学年が進行するにつれて各項目において4の評価が増加しており、系統的指導による「できた」の実感と、これまでの学習と関連付けた指導の結果が現れていると考える。全学年において、他者の考えを知り、知見を広げるための学習活動の充実が課題となった。	項目2「単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」項目5「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」の項目において課題が見られたことから、他者の考えを知り、新たな気づきと自らの考えを広げ深めるための学習活動を積極的に取り入れ、充実させることに努める。毎時の学習活動の中に1回は他者との対話的活動を取り入れることを目標に、深い学びの実現に向けた授業の展開を目指す。
		3.1		
		3.2		
		3.2		
		3.2		
		3.1		
		3.2		
芸術		3.2	各項目の評価平均は3.1以上となっており、概ね良好である。1学期と比較して、項目1「毎時間の授業や単元(内容のまとまり)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある」と項目4「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」の評価が上がっていることから、生徒が学習の目標を捉え、振り返りを行うことで「できた」「身についた」と感じることであったと伺える。また、項目3「課題について自分の考えをまとめたり、解決方法を考える場面がある」も上昇している。これは生徒の活動の支援が教師主導になりすぎず、生徒自身で考え解決していくプロセスと教師の支援のバランスが良かったのだと考えられる。	項目2「単元の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを深める機会がある」と、項目5「他者の考えを知ることにより、自らの考えを深めた」については例年の課題項目である。本年度は3年生において教科内横断相互鑑賞会を行ったが、依然として他の項目より低い。これは生徒は他の生徒の活動内容にも関心があるが、それに十分に対応できていないと言える。教科と特性上、制作時間や練習時間確保に留意しがちだが、課題の成果だけでなく、過程にも着目し、共有したり、他者に意見をもらったりする時間を単元の中で丁寧に持ち、自分の活動を客観的にみることができるよう内容に改善していきたい。
		3.1		
		3.2		
		3.2		
		3.2		
		3.1		
		3.2		
英語		3.1	各項目の評価平均は3.0以上となっており、概ね良好である。1学期と比較して、項目1「毎時間の授業や単元(内容のまとまり)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある」と項目4「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」の評価が上がっていることから、学習に対する目標が明確になったことで生徒の達成感も増したことが伺える。しかし、「自分の考えをまとめ」たり、「課題の解決方法を考え」たりする点においては全体の中で低い評価となっているため改善していく必要がある。	項目3「単元(内容のまとまり)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある」や、項目6「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた」については例年評価が低くなりがちである。教科の特性上、教科書に書かれていることを理解できないと先に進めないため、内容を読み解くことに時間がかかってしまうことも原因の一つであると考えられる。内容を読み解いた上でさらに理解を深められるように、課題を示し、それに対する解決方法を生徒自身が考える機会を増やしていく。また、ICTを活用しながら考えを共有したり発信したりする機会を増やし、改善に向けて努めていきたい。
		3.0		
		3.0		
		3.1		
		3.0		
		3.0		
		3.1		
家庭		3.2	各項目の評価平均は2.9～3.2と、おおむね良好であった。ただし、質問項目5について評価が2.9と全体の中では低い評価となった。2学期は実習を中心とした授業であったため、被服実習については個人作業が多く、受け身であったこと。被服の座学、調理の座学についても受け身の学習が多かったことからこのような結果がもたらされたと考えている。質問項目1及び4については高評価なので引き続きプリント作成の際には留意していきたいと考える。	今回特に評価の低かった質問項目5「他者の考えを知ることにより、新たな考えを知るなど、自らの考えを広げふかめることができた」については協力して取り組める、ペアワーク課題や他者の意見を聞く、聞き取り課題などを織り交ぜることにより、改善を進めていくように努めたい。
		3.0		
		3.1		
		3.2		
		2.9		
		3.1		
		3.1		
情報		3.1	各項目の評価平均は2.9～3.3と、おおむね良好であった。ただし、質問項目2と5について評価が2.9と全体の中では低い評価となった。2学期は、表計算を使った実習の時間が多く、個人での作業が多くなった影響もあるように感じる。また、質問項目4は昨年同様、全体で一番高い評価点であったことから、パソコン操作での戸惑いは少ないと考えられる。	特に、評価点の低かった質問項目2「単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」と質問項目5「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」については、例年低い評価となるため、実習では、協力して課題に取り組むような教材の工夫を行い、他者と協力して実習課題に取り組めるよう改善していきたい。
		2.9		
		3.0		
		3.3		
		2.9		
		3.1		
		3.1		
総合的な探究の時間		3.1	どの設問も、1学期と「4かなり当てはまる」「3ほぼ当てはまる」のポイントは変わっていない。探究という科目のねらいについてある程度、達成できていると考えることができる。	実施前に、担当する教員の共通理解を得て取り組みを行う。その際、毎回の授業のめあてや目的を説明し、何のために探究学習をするのか明確にすることを続けて行っていく。 今回の結果を踏まえて、来年度 学年が上がることを意識しながら、最後のまとめを行っていく。また、今回の1学期2学期の結果をもとに、来年度さらにより良いものにする。
		3.2		
		3.2		
		3.0		
		3.2		
		3.1		
		3.1		
進路実践（自己と社会）		3.0	教科の特性上、自分の課題について考える時間を多くとっているため質問項目3の評価平均は高くなっている。これからも自分の課題について考える時間を多くとっていきたい。逆に質問項目2は授業の中でできるようになったと実感することができたが低くなっている。授業で何を身に付けてほしいのかを説明していなかったからだと予想した。	授業の中で達成感を感じていない生徒もいるので、授業の最初に何を身に付けてほしいのかを確認してから授業を行い最後に身に付けられたかの確認をするような授業展開にしていきたい。
		3.1		
		3.2		
		2.8		
		3.0		
		3.1		
		3.1		